

トークイベント未来にワクワク、みんなの新図書館 実施報告書

1. 実施概要

(1) 開催概要

日時：令和7年11月30日（日）14：00～15：30

会場：別府大学メディア教育・研究センター4階 メディアホール

主催：別府市

運営：株式会社 naNka

(2) 登壇者

松田 美香 氏（別府大学図書館長）、小野 駿 氏（別府大学国際言語・文化学科3年）、梅本 弥生（株）naNka 代表取締役）、宮本 真子 氏（別府市立図書館司書）

ファシリテーター：河野 智洋（株）naNka

(3) 来場者数

事前申込者数：55名 当日来場者数：54名

(4) 展示概要

障がい者アート展・缶バッジワークショップ

会場：別府大学 18号館 2F ギャラリーホール

開催時間：13:00～16:30

来場者：38名

展示点数：57点

展示作家：18作家

ワークショップ参加者：26名

2. トークイベント

テーマ：未来へワクワク、みんなの新図書館

【トークイベント内容】

トークイベントの冒頭に、別府市立図書館の宮本真子さんから「こもれびパーク新図書館」の説明がありました。最大収蔵冊数は現在の20万冊から32万冊へと1.6倍に増加し、施設には3つのコモンズ（アクティブコモンズ、ラーニングコモンズ、クリエイティブコモンズ）が設置され、カフェ（ウィッチコーヒー）、多目的ホール、地域郷土資料館も併設。バリアフリー設計で、電動昇降式デスク3台、自動貸出機、自動返却機、読書支援室なども完備されるとのこと。

その後のトークセッションでは「未来へワクワク、みんなの新図書館」をテーマに「新しい図書館のわくわくを形にする」と「別府らしい図書館とは何か」という2つのテーマで議論しました。

【トークイベントのポイント】

トークテーマ1：新しい図書館のわくわくを形にする

松田さんが別府大学図書館のリニューアル経験を共有し、1階の「集い」スペースで会話や飲み物が可能になったことで利用者が増加したと報告。小野さんは下関市立図書館での幼少期の思い出を語り、4階建ての複合施設で家族それぞれが異なるフロアを利用していた体験を紹介。宮本さんは子育て世代の継続利用への期待と、図書館が本を借りるだけの場所ではない交流拠点として認識されることへの願いを語りました。また、新図書館でのCD、電子図書館での音声読み上げ機能について宮本さんが説明。松田さんはポッドキャストなどの活用の重要性を強調し、図書館が書物から音声コンテンツまで包含する場所になることへの期待を表明。宮本さんは新図書館のコンセプトの一つとして「音のグラデーション」概念を説明し、静寂から適度な会話まで、段階的な音環境を提供することで、様々な利用者のニーズに配慮した対設計であることを伝えてくれました。

トークテーマ2：別府らしい図書館とは

続いて別府らしさについて各登壇者が意見を交換。梅本さんは生粋の別府育ちとして「お祭り好き」な気質を挙げ、毎月何かしらのイベントや祭りなどがある文化を紹介。松田さんは県外出身者の視点から「湯けむり」と「人と人との交流」を特徴として挙げ、留学生と高齢者の世代間交流や異文化交流の豊富さを指摘。小野さんは「硫黄の匂い」と「人の温かさ」を挙げ、外来者への寛容性と受け入れの文化について語りました。宮本さんは図書館業務を通じて利用者の包容力と受け止める力を実感していることを報告しました。

トークテーマまとめ：新図書館への何にワクワク？

トークセッションのまとめとして、各登壇者が「新図書館〇〇にワクワク」の形で最終メッセージを発表。小野さんは「出会いにワクワク」として、様々な形での人との出会いの可能性を強調。松田さんは「偶然にワクワク」として、予期しない発見や体験への期待を表明。宮本さんは「あなたにワクワク」として、一人一人の利用者が図書館をどう活用するかへの期待を語りました。梅本さんは「自由にワクワク」として、ルールの中での自由な活動と、それぞれの自由を受け入れ合う文化の素晴らしさ伝えました。

【質疑応答】会場の皆さんとの交流

トークセッション終了後に会場の皆さんからの質問とご意見が寄せられました。一人目の参加者は別府らしさは意識的につくるのではなく、日常の丁寧な暮らしから自然に生まれるものだと指摘。司書の専門性向上と待遇改善の重要性を語っていただき、図書館が新しい文化や産業を生み出す装置になることへの期待をお伝えいただきました。二人目の参加者はコンサートなどのイベント開催について質問し、宮本さんから図書館としてさまざまな企画の準備があることなどの回答を得ました。三人目の参加者は利用者への細やかな対応と情報提供の価値について言及し、施設としてハード面だけでなく孤独な人々への支援としての図書館の役割に期待を寄せていただきました。

【まとめ】

今回のトークイベントでは、「こもれびパーク新図書館」が、地域共創の拠点として生まれ変わることにスポットを当てました。3つのコモンズによる多機能空間、音のグラデーションなどの豊かなコンセプトやバリアフリー対応により、市民の皆さんが自分らしく過ごせる場所になることを目指します。特に印象的だったのは、登壇者それぞれが語った「ワクワク」の内容です。

「出会い」「偶然」「あなた」「自由」という言葉からは、新図書館が人と人、人と本、人と文化をつなぐハブとしての役割を果たすことへの期待が感じられました。別府らしさとして挙げられた「人の温かさ」「多様性への寛容さ」「お祭り好き」といった特徴が、新図書館の運営にも活かされることで、魅力的な図書館が誕生することでしょう。

3. 当日写真

会場全景



パネルディスカッションの様子





展示風景およびワークショップ



